



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第30号・2009年 3月発行

北加日本語教師会 2009年の春の例会 パトリック・マシアス (Patrick Macias) 氏 『アメリカにおけるJ-ポップ：その過去と現在』 Sunday, May 3, 2009 San Francisco State University



会長の挨拶

活動報告とお願い

南 雅彦

北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様は、新学期をどのようにお迎えになりましたか。まず、最初にNCJTA昨秋の活動報告をさせていただきます。11月8日 (土) に *Foreign Language Association of Northern California* (略称 FLANC) の年次発表会が UC Berkeley で開催され、午後のセッションの1つとしてNCJTA秋の例会が行なわれました。NCJTA秋の例会では、UC Berkeley の神原若枝先生が読解に関してお話しく下さいました。NCJTAでは、新しい広報活動として、FLANCのニューズレターにも日本語教育関連記事の掲載を昨年より積極的に行なっています。今回のFLANC年次発表会で口頭発表されたサンマテオのオデッセイ中学の校長先生である Michael Smuin 先生に、FLANCのニューズレター最新号 (Fall 2008) に、“Why Japanese?” と題して執筆記事を投稿していただきました。今後もこうした広報活動をさらに積極的に行なってまいりますので、皆様、どうかご参加、ご出席、そしてNCJTAニューズレターばかりでなく、FLANCニューズレターにも日本語教育関連の記事をご投稿いただけますよう、お願い申し上げます。

12月2日 (日) は、習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test : 略称 JLPT)』が SFSU で実施され、NCJTA 会員の先生方にも試験監督としてご協力いただきました。SFSU での JLPT 受験者数は年々増加し、今回は485名が受験しています。この受験者数は全米9ヵ所ある試験会場の中でもロスアンゼルス556名に次ぐ屈指の規模です。NCJTA の会員、皆様のご協力に心から感謝しています。

さて、NCJTA は一昨年、非営利団体として認可されたので、ここで役員改選に関して申し上げたいと存じます。NCJTA は非営利団体としてすでに認可されていますが、現在、次のステップとして、非課税団体としての扱いが受けられるよう継続して申請中です。この申請が認められるには、まだしばらく時間がかかり、たとえ認可されても、その後、毎年の決算期には煩雑な事務処理や手続きの仕事が引き続き発生してまいります。次の役員の方々には毎年、いつ何をすべきかを明確に、できればマニュアル化しておく必要があります。ですから、少なくとも、そうした作業が一段落するまでは、私と会計の (UC Davis の) 齊藤先生は引き続き従来通りの役職でこの作業を完了すべく従事させていただきたくお願い申し上げます。齊藤先生とはこの件に関して何度も話し合いの場を持ち、1月の役員会にも諮りました。こうすることが今後の役員の方々、特に会長、会計に従事される方々にとって最善・最良の選択だと考えています。

また、非課税団体となりましても、州政府と連邦政府には活動報告を毎年提出する義務があり、それらにはおよそ \$400 の経費が必要になってきます。ですから、今後の

非営利団体としてのNCJTAの存続のためにも会員の皆様には年会費のご納入を切にお願いいたします。これは遡及的に未納の方をお願いするものではございません。つまり、前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納分のお支払いをお願いする性質のものではありません。是非とも今年度分の年会費（一般\$15、学生\$5）からお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

どのような団体も完全無欠の状態であることはありませんし、静止していません。いつもどこかを修正、微調整する必要があります。私が会長職を引き受けました際、

(1) NCJTAが非営利団体として認可されるよう、前役員の方々がすでに始められていた申請を完了する、(2) NCJTAの会員数を増やす、という2つの事柄を完遂することを目標として掲げました。上述のように、非営利団体としては認可されました。しかし非課税団体としての認可がまだ完了していません。また、昨年ご報告しましたが、会員数は上向きに転じました。しかし年会費の滞納という問題を解消できずに今日に至っています。このように考えれば、当初の目標を達成したとは言えず、残念ながら「道半ば」と言わざるをえません。

最後になりますが、今春もさまざまなイベントを通して、NCJTAのさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。5月3日、日曜日にはサンフランシスコ州立大学で春の例会を開催すべく、役員共々、鋭意、準備をいたしております。その名も『オタクUSA』という日本のポップカルチャーを専門とする雑誌がありますが、春の例会では、この雑誌の編集長を務められているパトリック・マシアス (Patrick Macias) 氏にお話しいただきます。マシアス氏はNHKワールドTVの特派員も務められ、オタクのための東京ガイド本『Cruising the Anime City: An Otaku Guide to Neo-Tokyo』や日本映画を紹介した『Tokyoscope: The Japanese Cult Film Companion』の著者でもいらっしゃいます。つい最近では、『につぼにあ』(No. 46, 2008)にも登場されていますので、ご存知の方も多いかと存じます。会員の皆様には、どうか奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。



2008年 秋の例会報告

2008年秋の例会は、11月8日土曜日の午後、*Foreign Language Association of Northern California* (FLANC) の午後のセッションとしてUC Berkeleyで開催され、UC Berkeleyの神原若枝先生が読解に関してお話しくれました。中級レベルでの読解教授法に関して、とても興

味深いお話をお伺いしました。それに先立つFLANCでは、午前の部でサンマテオのオデッセイ中学の校長先生であるSmuin先生と北加日本語教師会 (NCJTA) の役員でもある今瀬博先生が“Why Odyssey School Teaches Japanese?: Introducing Japanese Curriculum at Odyssey”と題した発表を、また午後の部ではUC Berkeleyの小松先生が“Multimedia Non-linear Teaching of Japanese Language in Culture”と題して発表されました。(文責：南)

2009年 春の役員会報告

日時：1月25日、日曜日、午後12時～2時

場所：4406 Dwinelle Hall, UC Berkeley

出席者：南雅彦、斉藤真由美、高坂聖子、森岡妙子、郷司裕、シアース多都美、神原若枝

議題は以下の通り。

1. 春の例会について
2. ニュースレターの原稿依頼、締切、発行日について
3. 以下の報告
 - a) スピーチコンテスト
 - b) FLANC
 - c) 日本語能力試験
 - d) 非営利団体の税免除の手続きに関して
4. 任期満了および空席の役員について

役員改選

書記、ニュースレター編集員、高校代表、学園代表の任期が満了もしくは空席ですので、役員に立候補ご希望、もしくはご推薦されたい方は役員立候補届用紙にご記入の上、下記住所までご郵送下さい (4月24日必着)。

宛先： Masahiko Minami
Department of Foreign Languages &
Literatures
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132



異文化から見る日本語の独特な表現

サンフランシスコ大学
永田憲子

2008年の秋、サンフランシスコ日本領事館で開かれた北カリフォルニアのスピーチコンテストに、私のクラスから5人の学生が参加しました。結果はどうあれ、みんなよ

く頑張っ、貴重な経験ができ、思い出深いセメスターでした。そのスピーチの一つに、トーマス・ディレンシュナイダーコードーさんが書いた「私から見た日本人の家族価値」というのがありました。それは以下のパラグラフで始まっています。

「行って来ます。行ってらっしゃい。」アメリカの日本語の授業で、この決まり文句を習いました。函館で、初めてこれをホストファミリーの川村さんに言われた時、別に深く考えませんでした。時間がたつと、この言葉が川村さん夫婦と私をつなげていたと気づきました。私は出かけてまたここに帰って来ることをもとめられています。私は帰る場所があるのです。(トーマス・ディレンシュナイダーコードー、スピーチコンテスト原稿、2008年、JAANC 35th Annual Japanese Speech Contest)

「行って来ます、行ってらっしゃい、ただいま、お帰りなさい」は、日本人が子供の頃から家を出る時、そして帰ってきた時、意識なしに交わしている日常の挨拶言葉です。しかし、大人になってひとたび独立すると、親の家を出る時「行って来ます」とは言えなくなり、これまで無意識してきた挨拶を改めて認識するような経験を、誰でも持ったのではないかと思います。今まで属していた家族のグループから、違った社会のグループへ、あるいは自分自身の新しい家族のグループへ居場所を移したのです。トーマスさんは「日本で家族が社会のグループの一番小さい単位で、子どもはまず家族の中でグループ意識と年上の人に対する礼儀を学ぶ」と言っていますが、その通りでしょう。

日本語には、グループの概念に基づいた表現が多く見られます。これは、自分を常にグループの中でとらえ、相手があってからこそ成り立つ表現です。典型的な例として、まず自分と相手をどのように呼ぶかを考えてみましょう。呼び方は家族内と家族外でも違って来るし、相手と自分の位置関係によってもかわってきます。Takao Suzuki (1986)が“In Japanese, unlike the European languages, definition of the addressee precedes self-definition”と言っています。つまり英語では自分を示す時は常に“I”であり、自分の定義が相手の存在に左右されません。しかし、日本語では話し相手の立場から自分を定義して、自分の呼び方を決めていきます。ですから、子供が何人かいる家族で一番下の男の子は自分を「ぼく」と呼び、家族の者からも「ぼく」と呼ばれます。家族の者が相手を「ぼく」「I」と呼ぶのは変なことですが、視点を一番年下の者にもって行って、そこからお互いの呼び方を決めるのです。小さい男の子が道で泣いていると、知らない人が「ぼくどうしたの？」と聞くのも同じ視点に立っています。また、家族の中でママは自分を「ママ」と呼び、おばあさんだっ、自分の娘を孫の前では「ママ」と呼びま

す。日本語の人の呼び方は英語と違ってとても複雑で、学習の難しいポイントです。

もう少し日本語独特の表現を考えてみましょう。「よろしくお祈いします」は、相手とよい関係を築き上げて行く大切なあいさつ言葉ですが、英語には該当する言葉がありません。人の家に入るとき「お邪魔します」といいますが、これも英語に直訳すると“I will disturb you”でおかしなものです。「いつもお世話になっています」も“I’ve been always under your care”だと日本人のあいさつ言葉としての意味が伝わって来ません。このように、日本語では相手を意識して、相手との関係を配慮したり、間接的に相手に感謝する表現が多いのです。

日本語の主語・目的語を省く文型や、トピックの助詞「は」を頻繁に使う談話などは、相手と知識を共有している、お互いに何をさしているのかがわかる、という前提にたっています。また「その言葉は先生が教えました」ではなく「その言葉は先生が教えてくれました」の方が自然です。「～てくれる・あげる・もらう」は、相手が自分のためにしてくれた、自分が相手のためにしてあげた、自分が相手にしてもらった、というようにだれが恩恵を受けたのかを明確にし、相手に感謝を表す日本語独特の表現です。この表現にさらに敬語を加えると「先生が教えて下さいました」になります。敬語は目上の人を高め自分を謙遜するという日本の伝統文化に根付いた独特な言い回しです。

以上お話しした点からも、言語がいかに社会や文化を反映しているのかが窺われます。学生に、日本語にあつて英語にない表現を考えさせ、それはどうしてなのか、その社会的・文化的背景的を分析するようなエッセイを書かせてみてはどうでしょうか。どうして日本語はこんな言い方をするのか、学生自身が考え、自ら日本文化を発見して行くいい機会だと思います。



会計からのお知らせ

NCJTAは2007年に非営利団体 (non profit organization) になりました。それで、寄付を受けることができるようになりました。現在Japan SocietyやTemple UniversityからNCJTAのウェブサイトの広告1件につき100ドルの寄付をいただいています。皆様の中で、広告を出していただけたら、ぜひ斎藤までご連絡ください。

NCJTAの会費は一般15ドル、学生5ドルです。2009年度分の会費 (2009年4月から2010年3月まで有効) を年会費

納入用紙といっしょに送ってくださるか、春の例会でお支払いいただければと存じます。昨年までの会費を払っていらっしやらない方も今年のみのお会費で結構ですので、皆様のご協力をお願いいたします。（会計：斎藤）

本語教師ばかりでなく、日本語学習者にとって新たな教育現場の発展および活性化につながることを希望してやみません。



イベントのお知らせ

- Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA) Spring Meeting
北加日本語教師会春の例会
 - 発表者：Mr. Patrick Macias
 - 演題：『アメリカにおけるJ-ポップ：その過去と現在』（J-POP in the USA: Past and Present）
 - 日時：5月3日（日）午後1時～4時
（講演は午後1時30分から午後3時まで）
 - 場所：San Francisco State University, College of Humanities, Room 133 (Humanities Auditorium).
 - 『オタクUSA』誌は、アニメやマンガなど日本のポップカルチャーを専門とする隔月刊行誌で、ニュース・スタンドなどで購入できます。この雑誌の編集長を務めていらっしやるのが、今回ご講演いただくパトリック・マシアス（Patrick Macias）氏です。マシアス氏はライターであり、エディターであり、そして、なによりも日本のポップカルチャー大好き人間です。ちなみに、マシアス氏はNHKワールドTVの特派員も務め、オタクのための東京ガイド本である『Cruising the Anime City: An Otaku Guide to Neo-Tokyo』や日本の映画を紹介した『Tokyoscope: The Japanese Cult Film Companion』、さらには『オタク・イン・USA：愛と誤解のAnime輸入史』の著者でもいらっしやいます。また、マシアス氏はjaPRESSというメディア関連、コンサルティングサービス会社の共同経営者でもいらっしやいますが、同社の日米のクライアントとしてはVizメディア、クロニクル・ブックス、Last Gasp、丸井、日本テレビ、NHK-テレビなどが挙げられます。今回、マシアス氏には『アメリカにおけるJ-ポップ：その過去と現在』と題して、ご講演いただきますが、『鉄腕アトム』のような初期のアニメから『うずまきナルト』に至るまで、アメリカでのJ-ポップの発展のあらましについてお話しして下さるそうです。日本のポップカルチャーという題材は、日本語教師と日本語学習者が共に学ぶことができる、つまり、双方が共有できるとても大切な機会になることでしょう。今回のマシアス氏のご講演で、教育的なツール（すなわち教材）として教室でアニメやマンガを使うことが、日



先生の紹介欄

保家しおり先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

保家（ほけ）しおりです。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

California State University, East BayとDiablo Valley Collegeと桑港学園です。

3) 日本語教師はいつから？

2006年にサンフランシスコ州立大学を卒業してからです。

4) ご趣味は？

趣味はたくさんあるのですが、一番の趣味は読書です。母も読書が大好きで私に「しおり」という名前をつけてくれたせいでしょうか。でも、読書し始めると何もできなくなるので、大変ですが（笑）

5) 日本の出身地は？

長崎県の対馬です。自然がいっぱいで、とても素敵な島です！（お魚がおいしいところです！）

6) アメリカに来てから何年ですか？

2000年の7月に来たので、今年で9年目になります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

毎日忙しいですが、毎セメスター新しい学生に会えるのがとても楽しみです。私の母も教師で、昔から、子供達の笑顔が毎日見れる仕事できて幸せだと言っていました。私も今、本当にそう思います。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

日本語教師になってまだ日も浅いので、わからない事ばかりですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

栗岡由布子先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

栗岡由布子（くりおかゆふこ）です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

Institute of Buddhist Studies (IBS) と桑港学園です。IBSはバークレーに、桑港学園はサンフランシスコにあります。

3) 日本語教師はいつから？

自分のクラスを始めて持たせていただいたのは2006年の春学期でした。始めてアシスタントとして日本語のクラスで教えさせていただいたのは2000年の秋学期からです。

4) ご趣味は？

お茶のお稽古をするのが一番の楽しみです。生け花も大

好きなので、早く先生を見つけてお稽古を再開したいと思っています。1年半ぐらい前からヨガを始めましたが、趣味が高じて、今年の夏はインドにヨガの指導者養成コースを受けに行くことになりました。

5) 日本の出身地は？

兵庫県です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

5年半ぐらいになります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

桑港学園では3年近く教えさせていただいています。学生は主に社会人の方々に、毎回違った背景を持った方々を教えることになります。常に新しい挑戦があり、新しい視点を学ばせていただけるのが楽しいです。IBSでは、**Buddhist Japanese**というクラスを教えさせていただいています。初めて日本語を習う方に内容のあるものを、しかも仏教関係のものを読ませなければいけないクラスです。学期が始まる前にコースリーダーを作るのですが、毎回クラスの後で補足のハンドアウト、コースリーダー自体の補正を行なうなど試行錯誤の日々を送っています。学生の熱心さから教えられることの多い毎日です。行き詰まってしまうこともあるのですが、やりがいのある仕事をさせていただいていることをありがたく思っています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

経験も知識も足りないことばかりですが、多くの方から学ばせていただきながら少しでも成長していきたいと思っています。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

西田詩穂先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

西田詩穂（にしだしほ）です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

サンフランシスコの桑港学園です。

3) 日本語教師はいつから？

2005年からです。

4) ご趣味は？

旅行とダンスです。

5) 日本の出身地は？

岡山生まれ、熊本育ちです。

6) アメリカに来てから何年ですか？

2003年から9か月ほどペンシルベニアに住んで、その後サンフランシスコに来ました。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

初級の担当が多いため、私自身も時々外国語を学んで初心の気持ちを忘れないように心がけています。あえて日本語という難しい言語に挑戦してくれる学生を大切に、日本語の面白さも伝えていけたらと思っています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

まだ教師としての経験、知識も浅く、日々力不足を感じています。例会、学会等を通じて、日本語力、指導力も

磨いていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

松本和子先生のご紹介

1) お名前を教えてください。

松本和子（まつもとやすこ）です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

DavisにあるUC Davis (University of California, Davis) に勤務しています。

3) 日本語教師はいつから？

2001年からです。大学院生の時にGraduate Instructorとして日本語の授業を担当したのが最初です。

4) ご趣味は？

旅行、温泉、ハイキング、カヤック、読書です。

5) 日本の出身地は？

大阪です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

あっという間に8年たちました。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

日本語教師という仕事は本当に面白い仕事だと日々感じています。今までにいくつか違う職種を経験してきましたが、これほど色々工夫ができて、その結果を直に感じられる仕事はないと思いました。これからも、昨年よりも、昨日よりもいい授業ができるように毎日研鑽を積んでいきたいと思っています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

昨年、寒いミネソタから、暖かいカリフォルニアに引っ越してきました。まだ今は行動範囲が狭いのですが、これからいろんなところに出かけて、たくさんの方とお話しをしたり、いろいろなことを教えていただく機会があればと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

春学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニューズレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げます。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、神原、高坂、今瀬までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

神原：wkambara@berkeley.edu

高坂：seikokosaka@sbcglobal.net

今瀬：hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451
<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO : Masahiko Minami 南雅彦
(同上)

副会長 : Kazue Masuyama 増山和恵
University of California, Sacramento
E-mail: masuyama@saclink.csus.edu

会計 : Mayumi Saito 斎藤真由美
University of California, Davis
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員 :
Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikokosaka@sbcglobal.net

<各レベル代表>

小学校 :

Taeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

Yu Goji 郷司裕

Clarendon Elementary School
E-mail: taizoji@hotmail.com

中学校 :

Hiroshi Imase 今瀬博
Odyssey School
E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

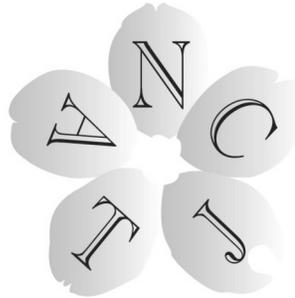
高校代表/フランク連絡員兼任 :

Atsuko Morse モールズ厚子
The College Preparatory School
E-mail: ahmorse@aol.com

コミュニティーカレッジ代表 :
Tazumi Searce シアース多都美
469 Tovar Drive, San Jose, CA 95123
E-mail: tazumi@comcast.net

大学代表 :

Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association